

古文「活用形6種」識別 100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosensei.com) 無断転載禁止

はじめに

古文文法の土台が**活用形6種**です。傍線部の用言（動詞・形容詞・形容動詞）が、**未然・連用・終止・連体・已然・命令**のどれかを答えます。見分けのカギは、ほぼ「直後にどんな語が続くか」で決まります。

記号	活用形	主な目印（直後に続く語）
ア	未然形	ず・む・じ・ばや・ば（もし～=仮定）
イ	連用形	て・つ・ぬ・たり・けり・き・つつ／用言に続く
ウ	終止形	べし・らむ・らし・まじ・なり（伝聞）・。（言い切り）
エ	連体形	体言（名詞）・なり（断定）／係助詞ぞ・なむ・や・かの結び
オ	已然形	ば（～ので=確定）・ど・ども／係助詞こそその結び
カ	命令形	文末で命じる（行け・見よ 等）

鉄則：活用形は**直後の語が決める**。「ず」が続けば未然、「て・けり」なら連用、「。」なら終止、名詞が続けば連体、「ば（確定）・ど」なら已然、命令の言い切りなら命令。

🎯 解き方のコツ

1. **直後の語**をまず見る（上の表）。
2. **四段は終止形と連体形が同じ形**（行く）。「。」なら終止／名詞が続けば連体。
3. **未然+ば=仮定（もし）**／**已然+ば=確定（～ので）**。四段は形が違う（行か／行け）ので形でも判別できる。
4. **係り結び**：ぞ・なむ・や・か → 結びは**連体形**。こそ → 結びは**已然形**。

採点表

部	問題	目標
第1部 基礎	Q1～Q20	18／20
第2部 標準	Q21～Q50	24／30
第3部 応用	Q51～Q80	21／30
第4部 入試	Q81～Q100	14／20

【第1部】基礎（Q1～Q20）

Q1. 次の傍線部「咲か」の活用形は、ア～カのどれか。

> 春浅く、花はいまだ**咲かず**。

Q2. 次の傍線部「行き」の活用形は、ア～カのどれか。

> 友のもとに**行きて**、もの語らふ。

Q3. 次の傍線部「鳴く」の活用形は、ア～カのどれか。

> 暁、いつくにか鳥**鳴く**。

Q4. 次の傍線部「散る」の活用形は、ア～カのどれか。

> 風に**散る**花を惜しむ。

Q5. 次の傍線部「吹け」の活用形は、ア～カのどれか。

> 風**吹けば**、波いたう立つ。

Q6. 次の傍線部「行け」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 「とく**行け**」と、せきたつ。

Q7. 次の傍線部「書か」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 返り**事を書か**む。

Q8. 次の傍線部「上り」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 男、京に**上り**けり。

Q9. 次の傍線部「あり」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 昔、世になき**宝あり**。

Q10. 次の傍線部「行く」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 都へ**行く**人に、文を託す。

Q11. 次の傍線部「咲け」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 梅は**咲け**ど、まだ寒し。

Q12. 次の傍線部「見」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ その文を、まだ**見**ず。

Q13. 次の傍線部「落ち」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 木の葉、はらはらと**落ちて**、地に積もる。

Q14. 次の傍線部「す」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ いかにも**すべし**。

Q15. 次の傍線部「する」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 涙もよほす**する**わざなり。

Q16. 次の傍線部「見れ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 月を**見れば**、心すずろなり。

Q17. 次の傍線部「見よ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 「**これを見よ**」とて、さし出づ。

Q18. 次の傍線部「受け」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ **恩を受けて**、忘れず。

Q19. 次の傍線部「死ぬ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 老いては、**やがて死ぬ**。

Q20. 次の傍線部「静かなる」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ **いと静かなる**夜なり。

【第2部】標準 (Q21～Q50)

解答：

Q21. 次の傍線部「思は」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ さらにかくとは**思は**ざりき。

Q22. 次の傍線部「立ち」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 露おきて、草**立ち**たり。

Q23. 次の傍線部「高し」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ この山、いと**高し**。

Q24. 次の傍線部「高き」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ **いと高き**山に登る。

Q25. 次の傍線部「高けれ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 山**高ければ**、道けはし。

Q26. 次の傍線部「来」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 人いまだ**来**ず。

Q27. 次の傍線部「来」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 昨日、客**来**たりき。

Q28. 次の傍線部「来」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 春は必ず**来**。

Q29. 次の傍線部「来る」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 今**来る**人を待つ。

Q30. 次の傍線部「来れ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 使ひ**来**れば、文を取る。

Q31. 次の傍線部「過ぎ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 月日はやく**過**ぎて、年暮れぬ。

Q32. 次の傍線部「過ぐ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ かくて時**過**ぐらむ。

Q33. 次の傍線部「過ぐる」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ **過**ぐる月日のはやさよ。

Q34. 次の傍線部「**過ぐれ**」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ **盛り過ぐれば**、花も散る。

Q35. 次の傍線部「**落ちよ**」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 「**とく木より落ちよ**」と言ふ。

Q36. 次の傍線部「**助け**」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ **人を助けむ**心ざし、深し。

Q37. 次の傍線部「**助く**」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ **弱きを助く**べし。

Q38. 次の傍線部「**助くる**」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ **人を助くる**こと、まれなり。

Q39. 次の傍線部「**助くれ**」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ **人助くれ**ど、報いを求めず。

Q40. 次の傍線部「**助けよ**」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 「**我を助けよ**」と叫ぶ。

Q41. 次の傍線部「あら」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ よもさることは**あら**じ。

Q42. 次の傍線部「あり」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ ここに人**あり**けり。

Q43. 次の傍線部「ある」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 心**ある**人に見せばや。

Q44. 次の傍線部「あれ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 命**あれ**ば、また逢ふ。

Q45. 次の傍線部「せ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ ともかくも**せ**ず。

Q46. 次の傍線部「し」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 旅の用意を**し**て、出で立つ。

Q47. 次の傍線部「すれ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 工夫**すれ**ど、かなはず。

Q48. 次の傍線部「せよ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 「はやく用意**せよ**」と仰す。

Q49. 次の傍線部「静かなら」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 夜**静かなら**ば、琴弾かむ。

Q50. 次の傍線部「静かに」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ いと**静かに**ものを言ふ。

【第3部】 応用 (Q51～Q80)

解答：

Q51. 次の傍線部「思ふ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ いか**にせむ**と思ふらむ。

Q52. 次の傍線部「思ふ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 人の**思ふ**こと、はかりがたし。

Q53. 次の傍線部「咲く」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 花の**咲く**を待つ。

Q54. 次の傍線部「行か」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ もし都に**行か**ば、訪ねむ。

Q55. 次の傍線部「見ゆ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 遠く山の見ゆらむ。

Q56. 次の傍線部「見ゆる」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ かなたに見ゆるは、何の灯か。

Q57. 次の傍線部「老い」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 人みな老いぬ。

Q58. 次の傍線部「越ゆ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ この坂を越ゆべし。

Q59. 次の傍線部「越ゆれ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 関を越ゆれば、国変はる。

Q60. 次の傍線部「美しき」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ いと美しき児（ちご）なり。

Q61. 次の傍線部「美しう」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 花、美しう咲きにけり。

Q62. 次の傍線部「死な」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ よも死なじ。

Q63. 次の傍線部「死ぬる」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 死ぬることの悲しさよ。

Q64. 次の傍線部「死ぬれ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 人死ぬれど、名は残る。

Q65. 次の傍線部「居」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ ここに居て、待たむ。

Q66. 次の傍線部「居る」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ そこに居る人は誰ぞ。

Q67. 次の傍線部「来」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 「はやく来」と呼ぶ。

Q68. 次の傍線部「うれしく」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ うれしく思ひて、笑む。

Q69. 次の傍線部「告ぐ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 使ひ、事の由を告ぐ。

Q70. 次の傍線部「告ぐる」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 別れを告ぐる人の声。

Q71. 次の傍線部「立て」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 「はやく立て」とうながす。

Q72. 次の傍線部「聞か」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ その名を、いまだ聞かず。

Q73. 次の傍線部「聞き」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 鐘の音を聞きつつ、ねぶる。

Q74. 次の傍線部「すぐれ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 才（ざえ）人にすぐれたり。

Q75. 次の傍線部「静かなれ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 夜静かなれば、虫の音さやか也。

Q76. 次の傍線部「行く」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 我ぞ先に行く。

Q77. 次の傍線部「咲け」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 花こそ咲け。

Q78. 次の傍線部「見る」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 月を見ること、夜ごとなり。

Q79. 次の傍線部「思へ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ よくよく思へ。

Q80. 次の傍線部「読ま」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ この書を読まばや。

【第4部】入試 (Q81～Q100)

解答：

Q81. 次の傍線部「来」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 鳥のここに来て、また飛び去る。

Q82. 次の傍線部「あら」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ よもあらぬことは言はじ。

Q83. 次の傍線部「す」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ いかに**す**とも、かなふまじ。

Q84. 次の傍線部「する」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 物**する**ついでに、文も書く。

Q85. 次の傍線部「過ぎ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 春**過ぎ**て、夏来たるらし。

Q86. 次の傍線部「見え」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 雲隠れて、月も**見え**ず。

Q87. 次の傍線部「侍れ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ さること**侍**れば、申し上ぐ。

Q88. 次の傍線部「をかしき」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ いと**をかし**きことを言ふ。

Q89. 次の傍線部「告げ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 別れを**告**げけり。

Q90. 次の傍線部「散ら」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 風吹かば、花や**散ら**む。

Q91. 次の傍線部「老ゆ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 人は皆**老ゆ**。

Q92. 次の傍線部「老ゆる」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ **老ゆる**身の悲しさ。

Q93. 次の傍線部「来れ」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 春**来れ**ば、花おのづから咲く。

Q94. 次の傍線部「見」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ その様を**見**て、あはれがる。

Q95. 次の傍線部「あり」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ いみじきこと**あり**とも、驚かじ。

Q96. 次の傍線部「思は」の活用形は、ア～カのどれか。

▶ 人に知られじと**思は**ば、つつしめ。

Q97. 次の傍線部「立つ」の活用形は、ア～カのどれか。

> 波の**立つ**音、絶えず聞こゆ。

Q98. 次の傍線部「せ」の活用形は、ア～カのどれか。

> な**せ**そ。

Q99. 次の傍線部「読め」の活用形は、ア～カのどれか。

> 「この歌を声高に**読め**」と仰す。

Q100. 次の傍線部「老い」の活用形は、ア～カのどれか。

> いたく**老**いたる翁、杖をつく。

採点・振り返り

部	点数
第1部 基礎 (Q1～Q20)	/20
第2部 標準 (Q21～Q50)	/30
第3部 応用 (Q51～Q80)	/30
第4部 入試 (Q81～Q100)	/20
合計	/100

復習のポイント - 活用形は「直後の語」で決まる。ず・む→未然／て・けり・たり→連用／べし・らむ・とも・。→終止／体言・を・に→連体／ば(確定)・ど→已然／命令の言い切り→命令。 - 四段は終止と連体が同形(行く)。「。」なら終止、名詞が続けば連体。 - 未然+ば=假定(もし)／已然+ば=確定(～ので)。 - 係り結び:ぞ・なむ・や・か→連体形／こそ→已然形。 - 「な～そ(禁止)」の「な」の下は未然形(カ変・サ変)／連用形(その他)。

解答:

